

# 東北 VALUE SIGHT

山形



株式会社朝日相扶製作所 代表取締役社長  
**阿部 佳孝 (あべ・よしたか)**

1972年、千葉県市川市出身。  
1995年東洋大学経営学部卒業後、株式会社岡村製作所入社。2001年に株式会社朝日相扶製作所入社。営業係長を経て、05年に前社長の急逝により、代表取締役社長に就任。

株式会社朝日相扶製作所  
山形県西村山郡朝日町大字宮宿600番地15  
TEL 0237-67-2002  
<http://www.asahi-sofu.co.jp/>

株式会社朝日相扶製作所は、農業の町である山形県朝日町で、OEM（相手先ブランドによる生産）により80社ものブランドの木製家具を製造している。複雑な形状でも彫り上げることのできる木材加工技術と熟練された職人技で、多くの家具メーカーから信頼を得ている。そんな同社だが、その成り立ちは、町の社会問題であった出稼ぎを解消し、雇用情勢の改善を図ることであった。

## 「相互扶助」地域になくってはならない会社 「NAMELESS-BRAND」として最高の技術を磨く

### 会社設立により朝日町に雇用を創出

当社所在地である朝日町は現在人口約7,500人、日本有数のりんごの産地である。高度成長期の頃は、町民の多くが冬の農閑期に出稼ぎに行っており、このうち100名ほどが東京にある大手のオフィス家具メーカーに出稼ぎをしていた。その当時、町会議員として「出稼ぎの町の解消」の思いから企業誘致を先頭に立ってやっていたのが創業者で現会長であり、祖父でもある阿部宗一郎である。その執念がみのり、昭和45（1970）年に、前述した大手家具メーカーへの出稼ぎ者を主な社員として、事務椅子用の縫製工場として会社を創業した。

こうして社員は冬場も家族と過ごせるようになった。社名の「相扶」は相互扶助を由来とし、会社は社員のために、社員は会社のために、という意味が込められている。社員や地域にとってなくてはならない会社であるべきだと考えている。

### 「業界の一番」を攻略

オイルショックを機に縫製から木工家具の製造にシフトした。創業以来発注いただいていたメーカーの仕事だけではリスクが高いと考えて、30年ほど前に、それまでのオフィス家具製造に加え、ホームユース家具の分野に進出した。ホームユース家具の市場を開拓したのは、創業以来仕事をいただいていた家具メーカーと競合しない分野にしようと考えたからである。

新分野の開拓にあたり、業界の一番である会社を攻略しようと、日本で展開している国外トップメーカーを調べ、ヨーロッパのブランド家具メーカーにたどり着いた。そして、創業者である祖父が同社に

対し営業を行ったが、その際、メーカー側から腕試しに「この作品をつくれるか」と問われた。当時はまだ技術が足りず、つくることができない状況だったにもかかわらず「つくれます」とたんかを切って会社に戻ってきた。そして、職人の努力と試行錯誤を繰り返して、つくことに成功。こうして業界の一番を攻略したことから、「技術力」が認められ、他の仕事にもつながっていった。

### 確かな技術力で応える

当社の技術的特徴の一つとして、木材の加工では非常に難しいとされる「複雑な曲面デザイン」の加工ができることがあげられる。加工には5軸NCルーター（木を切削する装置）を用いている。この装置は3軸（XYZ）に「振り子」「回転」を加えた5軸加工機で、複雑な形状のデザインの加工を可能にしている。この世界トップクラスの加工技術が、人間工学における「人になじむ柔らかい形」である曲線美を可能にしており、著名な家具デザイナーが集積するヨーロッパの家具メーカーから注文いただける理由でもある。

### 国連にイスを納品

平成20（2008）年頃、ブランド家具メーカーである、デンマークのワンコレクション社が高度な技術を持つ家具職人を世界中で探していた。同社では、世界的に有名な建築家である、デンマークの故フィン・ユール氏の作品を手がけているが、職人の高齢

化が進んだ事と人件費が高い事が重なり、彼の作品をつくることのできる職人を確保することが難しい状況になっていた。この経営課題を解決するため、当社にお声がけいただき、平成21（2009）年より受注を始めた。ユール氏の家具をつくることは、自動車と言えば「フェラーリをつくってくれ」と言われるようなもので、大変光栄なことである。

さらに、平成24（2012）年の秋には、ワンコレクション社経由でニューヨークにある国連本部ビルの信託統治理事会会議場に、いす260脚を納入させていただいた。この会議場は、元々1952年にフィン・ユールが設計を行っており、今日までに何度か改修が行われていたが、このたび全面的に改修されることとなって、デンマーク政府が国家プロジェクトとして取り組んだ案件であり、当社としても非常に名誉な仕事であった。

### 「ネームレスブランド」への誇り

当社では自社ブランドを持たずにOEMを行っているが、それは決して商品に誇りや責任を持たないということではない。ヒト・モノ・カネの経営資源をものづくりに集中させ、売ることはプロに任せる代わりに、「つくことは誰にも負けない」と決めている。また、OEMに徹することで、お客さまが安心して当社に注文できるのだと感じている。当社のブランド名は「NAMELESS-BRAND」、つまり「名を秘したブランド」だと考えている。

### 社員のための会社、そして「エルメス」への道

当社の従業員は基本的に正社員で、首切りのリストラをしたことはない。継続雇用により職人を育てることに重きを置き、リーマンショック時もそれを貫いてきた。それらが品質につながっている。

また、社内制度の一つにマイスター制度があり、一芸に秀でた技術者をマイスターとして認めている。現在マイスターは6名いるが、マイスターになれば定年がなく、賞与月には別途手当を支給している。管理者にならなくてもマイスターになれば、同等の手当て、もしくはそれ以上の処遇が受けられる。ものづくりは人づくりであり、技術者を高く評価し、人材育成に努めている。



創業当時の精神を忘れることなく、これからも朝日町でものづくりを極めていきたいと思っている。そして目指すは、世界トップブランドのエルメス。いつか、その家具を手がけたい。



国連本部ビルの信託統治理事会会議場(上)と  
いす「UNチェアー」(左下)